



2012年11月9日

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト第2期活動  
～活動報告書～

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト  
共同委員長 長谷川 閑 史  
( (公社)経済同友会 代表幹事 )  
箕 浦 輝 幸  
( 中部経済同友会 代表幹事 )

## ・活動概要

---

### (1) 活動方針

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトは東日本大震災からの復興支援活動の実施に際し、被災地復興の基盤となる「人づくり」と「産業活性化」に貢献することを基本方針としている。

第2期活動では、第3回運営委員会(2011年11月22日開催)および第4回運営委員会(同年12月15日、16日書面開催)において、特に大きな被害を受けた岩手県、宮城県、福島県での支援活動に均等に配分するとともに、各県の復旧・復興状況を踏まえ、参加企業・個人から預かった寄附を被災した職業高校への実習機材提供、国立大学による復興支援事業への資金援助、各県が運営する震災遺児・孤児の支援基金及び福島県二本松市への資金提供を実施する旨を決議した。

その後、2012年2月20日から募集を開始した寄附が想定に比べて伸び悩んだこと、及び職業高校への実習機材提供に関わる据付調整・搬入等に要する諸経費に対応する必要から、5月14日に開催した第5回運営委員会において支援内容の見直しを協議した。各県教育委員会をはじめとする支援先との協議に基づき、活動方針を遵守しつつ支援総額を引き下げる旨を決定し、職業高校(約1.91億円)、国公立大学(2,400万円)、震災遺児・孤児の支援基金(1,500万円)、福島県二本松市(1,000万円)を行い、目標総額を2.4億円に変更した。同決定に基づき、5月15日付にて、あらためて各支援先に寄附採納確認願書を発行した。

### (2) 寄附募集

第2期活動では、当プロジェクトに対する寄附について東京国税局による寄附税制適用の確認を得た(2012年2月16日付)ことから、2012年2月20日より寄附金の受付を開始した。以降、2012年6月29日の期間満了までに、191の企

業・法人ならびに 21 名の個人より寄附金を受領した（「 収支報告書」を参照のこと）。

### （ 3 ） 支援活動

第 2 期活動では、参加企業・法人より受領した寄附金を第 3 回、第 4 回、第 5 回運営委員会での決議に基づき、岩手県・宮城県・福島県の 3 県にほぼ均等に配分し、以下の支援に充当した（「 収支報告書」を参照のこと）。なお、被災した職業高校への実習機材の贈呈については、各県教育委員会と寄附募集前に協議を重ね、各校における優先度に基づいて支援内容を決定している。

#### 1 ) 岩手県

##### 被災した職業高校への実習機材提供

岩手県内では、種市高校、久慈東高校、久慈工業高校、宮古水産高校、宮古商業高校、宮古工業高校、大船渡東高校、高田高校に添付実習機材を提供した。2012 年 6 月 20 日に久慈東高校へ床走行式電動介護リフトなどを寄贈して以降、各校に順次、実習機材の納入を行い、8 月末の久慈工業高校への数値制御旋盤（NC 旋盤）の寄贈をもって第 2 期活動による岩手県内の職業高校への実習機材提供を完了した（添付「機材一覧」を参照のこと）。

##### 国立大学法人岩手大学

国立大学法人岩手大学が実施する震災復興プロジェクト「三陸地域復興センター」に対して、7 月 23 日付にて 1,222 万 7,023 円を入金した。

#### 2 ) 宮城県

##### 被災した職業高校への実習機材提供

宮城県内では、宮城県農業高校、宮城県水産高校、気仙沼向洋高校に添付実習機材を提供した。2012 年 6 月 22 日に宮城県農業高校へスピードプレイヤーなどを寄贈して以降、各校に順次、実習機材の納入を行い、8 月末の気仙沼向洋高校仮設校舎への教師用師範台及び生徒用被服台の設置をもって第 2 期活動による宮城県内の職業高校への実習機材提供を完了した（添付「機材一覧」を参照のこと）。

##### 国立大学法人東北大学

国立大学法人東北大学地域イノベーション研究センターによる「東北未来創造イニシャティブ」に対して、社会イノベーター人材の育成事業などを行うための資金として 7 月 23 日付にて 1,222 万 7,023 円を入金した。

##### 公立大学法人宮城大学

公立大学法人宮城大学による「復興ステーションプロジェクト」に対して、南

三陸町における復興支援事業などを行うための資金として 7 月 23 日付にて 822 万 7,023 円を入金した。

東日本大震災みやぎこども育英募金

宮城県が運営する震災遺児・孤児の生活支援基金「東日本大震災みやぎこども育英募金」に対して、7 月 23 日付にて 722 万 7,023 円を入金した。

### 3) 福島県

被災した職業高校への実習機材提供

福島県内では、小高工業高校、郡山北工業高校、福島工業高校、相馬農業高校、安達東高校、岩瀬農業高校、喜多方桐桜高校、勿来工業高校、修明高校、平工業高校、二本松工業高校に添付実習機材を提供した。2012 年 6 月 28 日に勿来工業高校へガスクロマトグラフ機材一式を寄贈して以降、順次、実習機材の納入を行い、8 月末の小高工業高校への CAD・CAM システム一式の寄贈をもって第 2 期活動による福島県内の職業高校への実習機材提供を完了した（添付「機材一覧」を参照のこと）。

東日本大震災ふくしまこども寄附金

福島県が運営する震災遺児・孤児の生活支援基金「東日本大震災ふくしまこども寄附金」に対して、7 月 23 日付にて 1,222 万 7,023 円を入金した。

二本松市放射性物質測定センター

福島県二本松市が運営する放射性物質測定センターに対して、3 月 30 日付にて 1,000 万円を入金した。

## 収支報告書（添付収支内訳参照）

---

### （1）収入の部

第 2 期活動では、2012 年 2 月 20 日の受付開始以降、期間満了となる 6 月 29 日までの間に、個人 21 名より 206 万 8,000 円、191 の企業・法人より 2 億 6,605 万 1,586 円の寄附金を受領した。また、その間に発生した受取利息収入 6,527 円についても寄附金に支援に充当することとした。以上により、第 2 期活動における収入は総額 2 億 6,812 万 6,113 円となった。

### （2）支出の部

第 2 期活動では、総額 2 億 599 万 1,000 円の実習機材を被災した職業高校に提供した。内訳は、岩手県 7,428 万 2,283 円（種市高校 2,815 万 3,919 円、久慈東高校 106 万 2,337 円、久慈工業高校 2,210 万 4,915 円、宮古水産高校 529 万 7,513 円、宮古商業高校 90 万 3,499 円、宮古工業高校 86 万 7,930 円、大船渡東高校 1,141

万 7,070 円、高田高校 447 万 5,100 円)、宮城県 5,456 万 7,737 円(宮城県農業高校 1,905 万 8,550 円、宮城県水産高校 3,309 万 577 円、気仙沼向洋高校 241 万 8,610 円)、福島県 7,714 万 981 円(小高工業高校 902 万 453 円、郡山北工業高校 1,117 万 5,345 円、福島工業高校 1,377 万 9,707 円、相馬農業高校 286 万 8,044 円、安達東高校 530 万 9,719 円、岩瀬農業高校 494 万 7,101 円、喜多方桐桜高校 499 万 6,121 円、勿来工業高校 800 万 8,350 円、修明高校 371 万 558 円、平工業高校 486 万 6,561 円、二本松工業高校 845 万 9,042 円)となった。なお、各実習機材の購入に際しては、丸紅プロテックス株式会社、コマツ岩手株式会社、コマツリフト株式会社に発注し、据付調整・搬入まで実施した。

国立大学による復興支援事業への資金援助については、国立大学法人岩手大学三陸地域復興センターに 1,222 万 7,023 円、国立大学法人東北大学地域イノベーション研究センターに 1,222 万 7,023 円、公立大学法人宮城大学復興ステーションプロジェクトに 822 万 7,023 円の支援を実施した。

各県が運営する震災遺児・孤児の支援基金への資金提供として、宮城県運営の「東日本大震災みやぎこども育英募金」に 722 万 7,022 円を、福島県運営の「東日本大震災ふくしまこども寄附金」に 1,222 万 7,022 円を入金した。なお、岩手県が運営する「いわての学び希望基金」については、第 2 期活動における支援先を協議した第 3 回運営委員会(2011 年 11 月 22 日開催)時点で、岩手県より既に事業費を上回る寄附が多方面より寄せられているとの連絡があったため、第 2 期活動では支援を実施していない。

また、福島県二本松市が運営する放射性物質測定センターに対して、1,000 万円の支援を実施した。

以上により、第 2 期活動における支出は総額 2 億 6,812 万 6,113 円となり、収入全額を支援活動に充当し、差引収支額は 0 円となった。

以上